



JIMBOCHO COFFEE

TOP プロジェクトについて ブログ 神保町発、明治大学SDGsコーヒー コーヒーと神保町のおすすめ本
神保町のカフェ 神保町コーヒーMAP お問い合わせ

インタビュー

「どうすれば魅力あふれる神保町の未来を守れるか？」青野芳久さん（神保町地区地域コミュニティ活性化委員会 委員長）に聞く

上野志保美、濱田侑佳（3年）

7月20日のゼミでは神保町古書店「[高山本店](#)」代表の高山肇さん、神保町地区地域コミュニティ活性化委員会・委員長の青野芳久さん、[千代田区神保町出張所](#)長の武笠真由美さんにお越しいただきました。



前列右から4人目から青野芳久さん、武笠真由美さん、高山肇さん

まず、3名の方から講義形式で「神保町の魅力と課題」について伺った後に、3班に分かれ個別にゼミ生で質問をさせていただきました。今回は青野さんにインタビューさせていただきましたので、それを記事にさせていただきました（今後、高山さん、武笠さんについても順次、掲載させていただく予定です）。

神保町地区地域コミュニティ活性化委員会はどんな活動をしているか

まず、青野さんが委員長をされている神保町地区地域コミュニティ活性化委員会の活動について伺いました。

Search

最近の投稿

WHO（世界保健機関）事務局長補の山本尚子氏にお話をお伺いしました

明治大学のホームページで「3分の1のパン屋さん」を取り上げていただきました

「サステイナブル コーヒーで世界を変える」 José. 川島 良彰氏インタビュー

知られざるアフリカの妊産婦事情 — 藤田由布医師のニジェル体験記

ハフポストに記事が掲載されました！「明大生が一夜だけ開店した『3分の1パン屋さん』。店名に込めた『食品ロス』の2つの問題」

最近のコメント

新着記事



WHO（世界保健機関）事務局長補の山本尚子氏にお話をお伺いしました



明治大学のホームページで「3分の1のパン屋さん」を取り上げていただきました



「サステイナブル コーヒーで世界を変える」 José. 川島 良彰氏インタビュー



知られざるアフリカの妊産婦事情 — 藤田由布医師のニジ



エール体験記



ハフポストに記事が掲載されました！「明大生が一夜だけ開店した『3分の1パン屋さん』。店名に込めた『食品ロス』の2つの問題」

アーカイブ

2021年10月

2021年9月

2021年8月

2021年7月

2021年6月

2021年4月

2021年3月

2021年2月

2021年1月

2020年12月

2020年11月

2020年10月

2020年9月

カテゴリー

インタビュー

ニュース

分析

掲載誌

メタ情報

ログイン

投稿フィード

コメントフィード

WordPress.org

神保町地区地域コミュニティ活性化委員会は、千代田区から支援を受けながら地域コミュニティの活性化に向けた活動をしているとのこと。特に、神保町の地域の人々の繋がりを強め、地域の価値を高めることを目的として、地域コミュニティ活性化事業などに取り組まれてきています。

青野さんは20年以上前から委員会に所属されており、2年前からは委員長を務めていらっしゃいます。神保町で色々なイベントを行う中で、住民とのつながりや一体感を大切にしているとのことでした。

特に、青野さんは学生の街と呼ばれる神保町で若者中心の新しい街づくりを目指すことが、神保町の本質的な街づくりの部分になるのではと考えているそうです。そのために、私たち学生とコネクションを持って、多様なアイデアを引き出していきたいと話していました。そして、「自分はあくまでも若者主体の町づくりをサポートする役割でありたい」という言葉が、私たちの街づくりへの意識をより一層高めて下さいました。



神保町の魅力とは？

神保町のある千代田区は、皇居を中心に麹町など都会的な山の手の街と神田などの下町、二つの街の雰囲気を合わせ持っています。神保町周辺は商店街や古本屋街というノスタルジックな雰囲気の中に、大通りに出るとオフィスが並んでいます。神保町は下町の穏やかな雰囲気の中に都会的な風景を持ち、風情ある下町から発展を続ける都会までを楽しむことができます。青野さんは神保町に暮らす人々について「相互助け合いの心や地域を支えていこうという気持ちが強く、下町の住民意識に根差している」とおっしゃっていました。街に愛着を持ち、環境が変化しても長く住み続ける人が多いことは神保町が持つ価値の一つだといいます。

そして、神保町の文化発祥は「学生」が中心となって行われたと青野さんは考えておられました。神保町周辺には明治時代に多くの大学ができ、使い終わった教科書を売却できる古本屋が繁栄しました。そしてゆっくり読書ができる喫茶店、楽器屋、出版社、スポーツショップなどが並ぶ個性的な街へと発展を遂げました。つまり、神保町は学生がいるからこそ成り立った街なのです。いつの時代も学生をベースに文化が誕生し、いくつもの顔を持った神保町が形成されてきまし

た。学生の存在が神保町に多くの影響を与えていたことに、驚きと喜びを感じます。



これからの神保町

神保町は明治時代から学生が中心となって文化が発祥・発展しました。しかし、現在では千代田区全体と比較しても、神保町の少子高齢化が進んでいます。そこで、長年住み続けている住民と若者の間で、街に対する意識や考え方の違いが生じています。青野さんはこの課題に対して、世代を超えた深い交流と相互理解の必要性があると考えているそうです。神保町の再開発の動きが強まる今、私たち学生が当事者意識を持つことがより良い神保町の未来への第一歩になるのではと感じました。



いつまでも学生が中心の街へ

これからの神保町について、青野さんは「学生がメインの街であり続けて欲しい。学生が主体となることで、神保町が持つ本質的な部分につながるのではないのでしょうか。地域住民自分の意見だけでなく、学生の街への思いを尊重してサポートする立場になっていけたら。」とおっしゃっていました。私たちは、学生が既存の文化を大切に守り続けて欲しいと考えていらっしゃるのではないかと思っていました。思いがけない言葉に驚きました。長年、大学の存在が街の風景や文化を形成してきたことから、若者中心で神保町の活性化を目指していきたいと

文化を形成してきたとしても、石臼中心で神保町の活気は目指していただきたいという想いを、私たちの街づくりにも表していきたいと思います。

また、「古本街の風景は残してほしい」という住民の想いも反映していきたいとおっしゃっていました。「古本の街神保町」としての顔を残しながらも神保町に新しい価値を与えられる、学生ならではの視点を生かした街づくりが求められていると感じました。近年では周辺に学校を構える学生たちが、様々な神保町の街づくりを行っています。ぜひ、覗いてみてください。

最後に

青野さんの「神保町は若者が中心の街」という言葉が印象に残りました。私たちは伝統的な文化や街に根付いている文化を守り、受け継いでいくことに目を向けていました。これからは、神保町の時代に合わせた変化にも注目し、少しでも街の発展に貢献していけたらと思います。学生の意見を重視していただいていることを嬉しく思ったのと同時に、神保町についてもっと深く学ばなければならないと感じました。

神保町は様々な文化が溢れる街です。街の魅力をたくさんの人に伝え、これからの

神保町に新しい風を吹かせながら支えていくため、私たちにできることから始めようと思います。

青野さん、この度はお忙しい中お時間をいただき、ありがとうございました。

[Home](#) : [インタビュー](#) : 「どうすれば魅力あふれる神保町の未来を守るか？」 [青野芳久さん](#)（[神保町地区地域コミュニティ活性化委員会 委員長](#)）に聞く

2021-08-21 by [jimbocho_admin](#)

[神保町](#)、[コーヒー](#)、[明治大学](#)、[SDGs](#)

関連記事



インタビューNo.4: 「本当に美味しくフェアなコーヒーとは」（コーヒーハンター川島良彰さん、株式会社ミカフェート代表取締役社長）



神保町に息づく古本の世界とは？ ～ スーザン・テイラーさん（ハーバード大学 博士課程）に聞く



知られざるアフリカの妊産婦事情 — 藤田由布医師のニジェール体験記



「ソーシャルグッドロースターズ千代田 - コーヒーと福祉と街づくりと」（坂野拓海さん（一般社団法人ビーンズ代表理事））インタビュー



インタビューNo.2: エルサルバドルの生産者とつながる COYOTEの試み (門川雄輔さん、COYOTE マネージャー、元エルサルバドルJICA海外協力隊)

このプロジェクトについて

神保町コーヒープロジェクトは神保町発

でさまざまなコーヒーの情報発信をしていくものです。コーヒーを軸に「神保町の街づくり」と「SDGs」(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)に取り組めればと思っています。

twitter

@JimbochoCさんのツイート

神保町コーヒープロジェクトさんがリツイートしました

on a slow boat to...
@slwboat2

神田猿樂町でお店を始めて早8ヶ月目。MeidaiEcoHoneyの明治大学大森ゼミとの交流に始まり、神保町コーヒープロジェクトの島田ゼミとの交流、そしてふらっと神保町をへて大和屋物店さんとも繋がりが、手拭いをいただきました。(続く)



埋め込む

Twitterで表示

神保町コーヒープロジェクト

facebook

神保町コーヒープロジ...

このページに「いいね!」 25件の

140年 明治大学 MEJI UNIVERSITY

多様なアクター(主体)とつながり 共創の未来へ

グローバル

UNHCR難民高等教育プログラム(RHEP)

地域

SDGsを選じた観光まちづくりの推進

キャンパス

コーヒーからみる世界と日本 - 神保町コーヒープロジェクト

明治大学 × SDGs

SDGs 15 陸の豊かさを守ろう

10年計画 2020年開始

最新の取組事例はこちらから <https://www.meiji-sdgs.jp/letter/>

神保町コーヒープロジェクト

約1週間前

アムにちけ! 島田ゼミです!



JIMBOCHO COFFEE

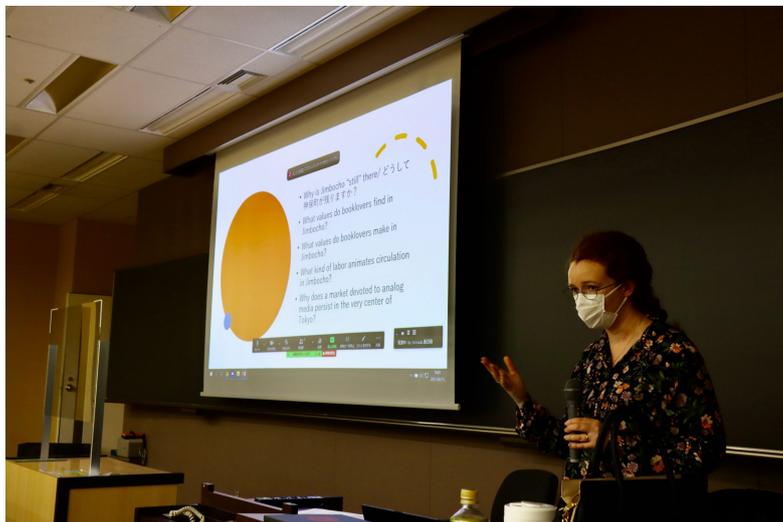
TOP プロジェクトについて ブログ 神保町発、明治大学SDGsコーヒー コーヒーと神保町のおすすめ本
神保町のカフェ 神保町コーヒーMAP お問い合わせ

インタビュー

神保町に息づく古本の世界とは？ ～ スーザン・テラーさん（ハーバード大学 博士課程）に聞く

曾我隼太（3年）

初めて神保町を訪れたのは「翻訳家になるなら、まだ翻訳されていない本がある神保町に行ってみたら？」と勧められたのがきっかけだと話すスーザン・テラーさん。今では彼女にとっての神保町は重要な研究対象であり、いくつもの論文を執筆しているほか近々書籍も出版される。そんな彼女に神保町についてお話を伺った。



（スーザン・テラーさんプロフィール）

テネシー州のアパラチア山脈で生まれ育ち、日本語を学びたいと幼い頃から思っていた。大学に入学したのち、日本語と日本の文化を専攻しようと2006年の夏、函館へ留学。2007年の夏、再び日本に来て、初めて神保町に行き、古書街に魅了される。2008年にジョージタウン大学を卒業し、日本の商社に入社したが、2010年から東京大学大学院学際情報学府に入り、神保町について修士論文を執筆。2011年初めて韓国の古書街について知り、2012年ソウルに短期留学。現在はハーバード大学院の文化人類学部博士課程学生で、東京大学にも在籍し神保町へ研究をおこなっている。

Search

最近の投稿

WHO（世界保健機関）事務局長補の山本尚子氏にお話を伺いました

明治大学のホームページで「3分の1のパン屋さん」を取り上げていただきました

「サステイナブル コーヒーで世界を変える」 José. 川島 良彰氏インタビュー

知られざるアフリカの妊産婦事情 — 藤田由布医師のニジェール体験記

ハフポストに記事が掲載されました！「明大生が一夜だけ開店した『3分の1パン屋さん』。店名に込めた『食品ロス』の2つの問題」

最近のコメント

新着記事



WHO（世界保健機関）事務局長補の山本尚子氏にお話を伺いました

明治大学のホームページで「3分の1のパン屋さん」を取り上げていただきました



「サステイナブル コーヒーで世界を変える」 José. 川島 良彰氏インタビュー



知られざるアフリカの妊産婦事情 — 藤田由布医師のニジェール



神保町を知るには歴史から

学生にとっては“大学の街”である神保町だが、せわしなく行き交う人々の間でひと際目を引くのが古本屋の存在である。ふと路地を曲がればそこにも古本屋がある。どうして東京の中心地にアナログなメディアをそろえる古本屋が多く残っているのか。この疑問に対し「神保町は歴史を知らないと言えない」とテイラーさんは言う。

「なぜ神保町には古本屋が集まったのか、なぜ神保町には大学が集まったのか、まずは歴史から追っていく必要があると思います。例えばもともと神保町は江戸城が近いことから親藩大名のお屋敷がたくさんあったのですが、明治維新でその多くが空き家になりました。大学はその空き家や跡地を利用する形で成立していったのです」。

最初の古本屋は、現在は出版社である「有斐閣」であり、当時は法律の専門書を扱う書店だったのだという。調べてみると有斐閣の創業は明治10年、現明治大学の前身である[明治法律学校](#)の設立は明治14年である。どちらも長い年月この神保町に根を張ってきたのだ。

神保町に息づく古本文化

「日本にはのれんわけの文化がありますよね。古本屋に弟子入りした人がそこで長く働き多くを学んだ後、独立する。そして新しい書店を開く。こうやって書店は神保町に広まっていったし、この文化は今でも残っています。」

テイラーさんの流ちょうな日本語の中に出てきた「のれんわけ」という言葉にどこか新鮮味を感じていると続けてテイラーさんの話は自身の研究について最も興味深かったという「競り市」に及んだ。明治古書店会、洋書会などのいわゆる古書の交換会は毎日開かれている。



エール体験記



ハフポストに記事が掲載されました！「明大生が一夜だけ開店した『3分のパン屋さん』。店名に込めた『食品ロス』の2つの問題」

アーカイブ

2021年10月

2021年9月

2021年8月

2021年7月

2021年6月

2021年4月

2021年3月

2021年2月

2021年1月

2020年12月

2020年11月

2020年10月

2020年9月

カテゴリー

インタビュー

ニュース

分析

掲載誌

メタ情報

ログイン

投稿フィード

コメントフィード

WordPress.org

「入札するとき店主はこれぞと思った本のタイトルが書かれた封筒に自身の営む店舗の名前を記入した紙を入れていきますね。そして彼らはその封筒を手に取り厚さを確認するのです。時には光にかざしてみたりしてその本の人気度を確認するのですね。面白いでしょ。驚いたのは一番高い入札金を提示した人がその本を落札できるってわけじゃないって事です。当時初めてその話を聞いた時理解できませんでした。訳を聞いたら当事者の人もわからないって。不思議でした」。値が高くていいというわけではなく本の1冊1冊に売り手が見込んだそれぞれの適正価格がある。買い手もそれに応じる。そんな古本に生き、古本を愛した者たちが脈々と受け継いできた暗黙の了解のようなものがそこにはあるのかもしれない。



若者と神保町

若者の古本に対する価値観の変遷についてもお話を伺ってみた。

「今は若者が古本の新たな使い方をInstagramやTwitterで広める動きもありますね」。SNSの利用者は全世界で42億人を超え日本でも8千万人近い人々が利用している。古本とSNSの連携からも神保町の魅力は更に発信していける可能性があるだろう。一方、古本屋で手に取ってみたいとわからない良さがあるとテイラーさんは力説する。その両方を、つまりアナログとデジタルどちらも使っていく事がこれからの神保町の姿なのかもしれない。

「古本屋を営む人からは、学生は今どんなことに興味を持ち、どんなことを学び、どんな趣味を持っているのか、そしてもう古本屋に来ることはないのかと聞かれることがあります」。

私たち学生も町の一部となって関係を深め、お互いが学び合えるような世界線で関わっていけるといいですねと話すテイラーさん。

目まぐるしい変化を遂げてきた日本の中心地、神保町で今も変わらず生き続ける文化にもっと触れていかなくては、そしてそれを伝え続ける人々ともっと深く関わっていききたいと思う。

関連記事



「どうすれば魅力あふれる神保町の未来を守れるか？」青野芳久さん（神保町地区地域コミュニティ活性化委員会 委員長）に聞く



神保町インタビュー「大和屋履物店」－「文化の継承」と「新しさ」への挑戦



「サステイナブル コーヒーで世界を変える」 José. 川島 良彰氏インタビュー



スティグリッツ教授（ノーベル経済学受賞者）との意見交換の動画を公開



インタビューNo.4:「本当に美味しくフェアなコーヒーとは」（コーヒーハンター川島良彰さん、株式会社ミカフェート代表取締役社長）

このプロジェクトについて

神保町コーヒープロジェクトは神保町発でさまざまなコーヒーの情報発信をしていくものです。コーヒーを軸に「神保町の街づくり」と「SDGs」（持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals）に取り組めればと思っています。

twitter

@JimbochoCさんのツイート

神保町コーヒープロジェクトさんがリツイートしました



on a slow boat to...
@slwboat2

神田猿楽町でお店を始めて早8ヶ月目。MeidaiEcoHoneyの明治大学大森ゼミとの交流に始まり、神保町コーヒープロジェクトの島田ゼミとの交流、そしてふらっと神保町をへて大和屋履物店さんとも繋がり、手拭いをいただきました。(続く)



埋め込む

Twitterで表示

facebook

このページに「いいね！」 25件の

140周年 明治大学 MEIJI UNIVERSITY

多様なアクター(主体)とつながり 共創の未来へ

グローバル UNHCR難民救済教育プログラム(難民庁)	地域 SDGsを巡じた最先端づくりの推進	キャンパス コーヒーからみる世界と日本 神保町コーヒープロジェクト
---------------------------------------	--------------------------------	---

明治大学 × SDGs

神保町コーヒープロジェクト 約1週間前